

# 海外食料需給レポート

## (2021 年 2 月)

令和 3 年 2 月 2 6 日

農林水産省

# 海外食料需給レポートについて

## 1 意義

我が国は食料の大半を海外に依存していることから、主食や飼料原料となる主要穀物(コメ、小麦、とうもろこし)及び大豆を中心に、その安定供給に向けて、世界の需給や価格動向を把握し、情報提供する目的で作成しています。

## 2 対象者

このレポートは、特に、原料の大半を海外に依存する食品加工業者及び飼料製造業者等の方々に対し、安定的に原料調達を行う上での判断材料を提供する観点で作成しています。

## 3 重点記載事項

我が国が主に輸入している国や代替供給が可能な国、それに加えて我が国と輸入が競合する国に関し、国際相場や需給に影響を与える情報（生育状況や国内需要、貿易動向、価格、関連政策等）について重点的に記載しています。

## 4 公表頻度

月1回、月末を目処に公表します。

## 5 本レポートに記載のない情報は以下を参照願います。

### (1) 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

- ・食料需給表：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
- ・食品の価格動向：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>
- ・米に関するマンスリーレポート：<http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

- ・食料需給見通し(農林水産政策研究所)：<http://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

### (2) 農林水産関係機関の情報（ALIC の情報サイト）：<https://www.alic.go.jp/>

- ・砂糖、でんぷん：<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>
- ・野菜：<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>
- ・畜産物：<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

### (3) その他海外の機関（英語及び各国語となります）

ア 国際機関

- ・国連食糧農業機関（FAO）：<http://www.fao.org/home/jp/>
- ・国際穀物理事会（IGC）：<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・経済協力開発機構（OECD）（農業分野）：<http://www.oecd.org/agriculture/>
- ・農業市場情報システム（AMIS）：<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関(代表的なものです)

- ・米国農務省（USDA）：<https://www.usda.gov/>
- ・ブラジル食料供給公社（CONAB）：<https://www.conab.gov.br/>
- ・カナダ農務農産食品省（AAFC）：<http://www.agr.gc.ca/eng/home/?id=1395690825741>
- ・豪州農業資源経済科学局（ABARES）：<http://www.agriculture.gov.au/abares>

# 目 次

## 概要編

|     |                                      |   |
|-----|--------------------------------------|---|
| I   | 2021 年 2 月の主な動き . . . . .            | 1 |
| II  | 2021 年 2 月の穀物等の国際価格の動向 . . . . .     | 3 |
| III | 2020/21 年度の穀物需給（予測）のポイント . . . . .   | 3 |
| IV  | 2020/21 年度の油糧種子需給（予測）のポイント . . . . . | 3 |
| V   | 今月の注目情報 伸びる中国の需要と輸入 . . . . .        | 4 |

## （資料）

|   |                                  |   |
|---|----------------------------------|---|
| 1 | 穀物等の国際価格の動向 . . . . .            | 7 |
| 2 | 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移 . . . . .    | 8 |
| 3 | 令和 2 年 8 月以降の食品小売価格の動向 . . . . . | 9 |

## 品目別需給編

|    |                  |     |
|----|------------------|-----|
| I  | 穀物               |     |
| 1  | 小麦 . . . . .     | 1   |
| 2  | とうもろこし . . . . . | 8   |
| 3  | コメ . . . . .     | 1 3 |
| II | 油糧種子             |     |
|    | 大豆 . . . . .     | 1 8 |

## 【利用上の注意】

## (概要編)

## I 2021 年 2 月の主な動き

### 1 米国の 2021/22 年度の生産・輸出動向

米国農務省（USDA）は今後 10 年間の農業見通し等を議論する第 97 回の農業アウトLOOKフォーラムを、2 月 18 日～19 日にオンライン形式で開催した。これによると、2021/22 年度のとうもろこしの作付面積は、3,730 万ヘクタール、大豆は、3,650 万ヘクタール、小麦は 1,820 万ヘクタールと各品目とも前年度より増加する見通し。とうもろこしと大豆の計では史上最高となる。

小麦は、生産量が前年度と変わらず、輸出量減少も消費量が増加し、期末在庫率は前年度末（39.1%）から低下し、33.3%。とうもろこしは、生産量が増加する一方、国内需要や中国の飼料需要増による輸入増から輸出量が増加し、期末在庫率は 10.3%と前年度末と変わらず。大豆は、生産量が増加も、国内需要が史上最高で、輸出余力が少なく輸出量が減少し、期末在庫率は前年度末（2.6%）から 3.2%へ上昇も、歴史的には低水準。

### 2 豪州の小麦は史上最高の豊作

2 年連続干ばつの被害を受けた豪州では、2020/21 年度は一転降雨に恵まれた。冬作物の収穫が終了した。豪州農業資源経済科学局（ABARES）の「Crop Report」（2021.2.16）によれば、生産量は、前年 12 月報告よりウェスタンオーストラリア州やニューサウスウェールズ州でさらに引き上げられ、冬穀物・油糧種子計で 5,520 万トンで 2016/17 年度に次ぐ史上 2 番目の豊作となった。うち、特に小麦については前年度の倍増以上の増産で史上最高の 3,330 万トンで、大麦は 1,310 万トン、菜種も 410 万トンと前年度を大きく上回る増産の見通し。

夏作物は、作付けが終了し、今後収穫期を迎えるが、前年度、史上最低の 30 万トンの生産量であったソルガムは 2015/16 年度以来の 150 万トンと増産となり、コメも灌漑用水の割り当て増から前年度より 9 倍の 46 万トンと増産となる見通し。

### 3 ブラジルの大豆の収穫がようやく開始、生産量は史上最高

当初降雨不足で作付が遅れていたブラジルの大豆や夏とうもろこしの収穫が開始された。2 月 12 日時点で大豆の主産地のマトグロッソ州では、大豆の収穫進捗率は、22%と平年より 23 ポイント遅れている。また、リオグランデドスル州では夏とうもろこしの収穫が開始されたが、2 月 11 日時点で進捗率は 39%となっている。

ブラジル食料供給公社の 2 月穀物レポートによれば、大豆の生産見通しは、作付面積の増加から 1 億 3,380 万トンと前年度より 7.2%増、一方、とうもろこしは、価格の上昇が冬とうもろこしの作付意欲を刺激して作付面積が増加となり、夏作と合計で 1 億 550 万トンと前年度より 2.9%増加し、双方とも史上最高となる見通し。

写真：収穫を待つ大豆

マトグロッソ州 2 月 5 日撮影



＜2021 年以降実施、または実施予定のロシアの穀物・油糧種子の輸出規制＞

2 月 15 日以降導入された小麦の枠内輸出税 (25 ユーロ/トン) については、3 月 15 日以降、50 ユーロ/トンに引き上げられ、6 月 2 日以降、変動式の関税となる予定。

2021 年にロシアにおいて穀物や油糧種子に導入されたあるいは今後導入される輸出税は以下の通り。(2021 年 2 月現在)

| 政令決定日            | 規制  | 期間                       | 規制の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------------------|-----|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2020 年 12 月 10 日 | 輸出税 | 2021 年 1 月 9 日～6 月 30 日  | ヒマワリ種子と菜種種子の輸出税を、それぞれ 6.5%(ただし 11.4 ユーロ/トン以上)と 6.5%(ただし 9.75 ユーロ/トン以上)から 30%(ただし 165 ユーロ/トン以上)に引き上げる。                                                                                                                                                                                                |
| 2020 年 12 月 31 日 | 輸出税 | 2021 年 2 月 1 日～6 月 30 日  | 大豆に 30%(ただし 165 ユーロ/トン以上)の輸出税を導入。                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 2021 年 12 月 14 日 | 輸出枠 | 2021 年 2 月 15 日～6 月 30 日 | 小麦・メスリン、ライ麦、大麦、とうもろこしに関し、合計 1750 万トンの穀物輸出枠を設定。これを超える分については 50%(ただし 100 ユーロ/トン以上)の輸出税を設定。輸出枠は 2020 年 1～12 月の輸出実績(数量)に応じて輸出業者に分配される。                                                                                                                                                                   |
| 2021 年 12 月 14 日 | 輸出税 | 2021 年 2 月 15 日～6 月 30 日 | 小麦に関し、穀物輸出枠内の輸出であっても 25 ユーロ/トンを設定。                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 2021 年 1 月 23 日  | 輸出税 | 2021 年 3 月 1 日～6 月 30 日  | 小麦の輸出枠内での輸出税を 50 ユーロ/トンに引き上げ。                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 2021 年 1 月 23 日  | 輸出税 | 2021 年 3 月 15 日～6 月 30 日 | 輸出枠内で大麦に 10 ユーロ/トン、とうもろこしに 25 ユーロ/トンの輸出税を設定。                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 2021 年 2 月 6 日   | 輸出税 | 2021 年 6 月 2 日～(無期限)     | 小麦、大麦、とうもろこしに関し、変動式関税を導入。変動式関税では輸出通関の前週の市況(FOB ノヴォロシイスクの平均価格)が 200 ドル/トンを超えた場合に、超えた価格に 70%の関税がかかる。すなわち、指標価格(前週の FOB ノヴォロシイスクの平均価格)が 250 ドル/トンの場合、ロシアから輸出される全ての小麦に 1 週間は一律 35 ドル/トンの関税がかかる。FOB ノヴォロシイスクの平均価格は 4 月 1 日から農業省が公表する。<br>同時に大麦ととうもろこしについても変動式関税が導入され、どちらも 200 ドル/トンではなく 185 ドル/トンが基準価格となる。 |

## Ⅱ 2021 年 2 月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、1 月末、240 ドル/トン台前半で推移。2 月に入り、ドル高や米国産の価格水準の高さから輸出の減少が懸念され 230 ドル/トン台半ばに低下したものの、米国冬小麦生産地での寒波の影響懸念から 240 ドル/トン前後に上昇。その後、2 月の米国農務省穀物等需給報告で米国産小麦の在庫が据え置かれたものの、米国冬小麦生産地での寒波の影響懸念等から値を上げ、2 月中旬現在、230 ドル/トン台後半で推移。

とうもろこしは、1 月末、210 ドル/トン台半ばで推移。米国産とうもろこしの輸出が中国向けを中心に順調なペースを維持した一方、2 月の米国農務省穀物等需給報告で米国の期末在庫量の下方修正が市場予想を下回ったことから価格は小幅に上下し、2 月中旬現在、210 ドル/トン台半ばで推移。

コメは、1 月下旬、560 ドル/トン台後半で推移。輸出用コンテナ不足により遅延していた船積の開始により、貿易業者がコメの調達を進めていること等から 580 ドル/トン台半ばに上昇。その後、アジア諸国の旧正月のため輸出が低調となり価格が低下したものの、タイバーツ高等からコメ価格は高水準を維持しており、2 月中旬現在、560 ドル/トン台後半で推移。

大豆は、1 月末、500 ドル/トン台前後で推移。米国産大豆の輸出が中国向けを中心に順調なペースを維持したことやブラジルの降雨による収穫遅れ懸念があったが、2 月の米国農務省穀物等需給報告で南米の生産見通しが据え置かれたこと、ブラジルの収穫が 2 月中旬以降開始されたこと等から上値が抑えられ、2 月中旬現在、500 ドル/トン台半ばで推移。

(注) 小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場、米はタイ国家貿易委員会価格

## Ⅲ 2020/21 年度の穀物需給（予測）のポイント

世界の穀物全体の生産量は、前月から 210 万トン上方修正され 27.2 億トン。消費量は、前月から 1,050 万トン上方修正され 27.3 億トンとなり、生産量が消費量を下回る見込み。

また、期末在庫率は前年度を下回り 29.3%となる見込み（資料 2 参照）。

生産量は、前月と比較して、小麦、とうもろこし、コメで上方修正され、穀物全体で上方修正され 27.1 億トンの見込み。

消費量は、前月と比較してとうもろこしで下方修正されたものの、小麦、コメで上方修正されたことから、穀物全体上方修正され 27.2 億トンの見込み。

貿易量は、小麦、とうもろこし、コメで上方修正され、4.7 億トンの見込み。

期末在庫量は、8.0 億トンと前月より下方修正され、期末在庫率は前年度を下回る。

(注：数値は 2 月の米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」による)

## Ⅳ 2020/21 年度の油糧種子需給（予測）のポイント

油糧種子全体の生産量は前年度を上回り 6.0 億トン。消費量は前年度を上回り 6.1 億トンとなり、生産量が消費量を下回る見込み。

なお、期末在庫率は前年度を下回り、15.8%となる見込み。

(注：数値は 2 月の米国農務省「Oilseeds : World Markets and Trade」による)

## V 今月の注目情報:伸びる中国の需要と輸入

アフリカ豚熱の影響から豚肉生産が回復しつつある中国では、畜産向けの飼料需要が伸び、2020年の大豆輸入は史上初めて1億トンを超えた。とうもろこしや小麦の輸入も前年度比で2倍以上に増えている。2月21日に公表された中央一号文件では、食糧の6億5千万トン以上の生産の維持を掲げる同時に、輸入戦略にも言及している。最近の中国の状況をまとめた。

### 1 7億トンに近づく食糧の生産状況

中国国家统计局の「全国糧食生産量データ」(2020.12.10)によると、2020年の食糧(穀物、豆類、芋類の計)の生産量は6億6,950万トンで前年度より560万トン、0.9%増産となった。

品目別には、コメの生産量は、単収は洪水等の影響で低下も、作付面積は最低価格買上制度などの助成で増加し、対前年度比1.1%増の2億1,190万もみトン。小麦の生産量は、作付面積は華北の地下水くみ上げ過多地域での休耕等で減少も、単収が増加したことにより、対前年度比0.5%増の1億3,430万トン、とうもろこしの生産量は、作付面積、単収とも前年度並みで2億6,070万トンとなっている。

また、大豆の生産量は、作付面積、単収とも増加し、対前年度比8.3%増の1,960万トンとなり、史上最高が見込まれている。

図1 中国の穀物需要の推移

### 2 畜産需要回復で伸びる消費量

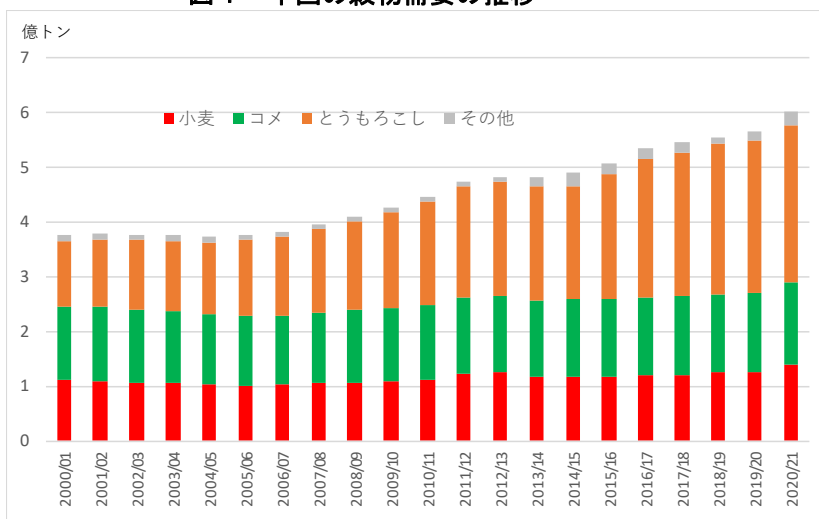
一方、統計局によれば、アフリカ豚熱の影響から回復しつつあることから、豚の2020年末の肥育頭数は、前年より31%増加の4億650万頭で2017年末の92.1%の水準まで回復した。

これに伴い、とうもろこしや大豆かすを始めとする飼料原料の需要が大幅に増加し、需要増加に伴いとうもろこしの価格が高騰するにつれ、代替として小麦の飼料向け需要も増加した。

中国政府は公式統計で需要量を公表していないため、米国農務省(USDA)の2月報告によれば、2020/21年度のとうもろこしや大豆の需要は前年度比それぞれ4%増、8%増と大幅に増加し、小麦の需要も11%増加する見通しである。

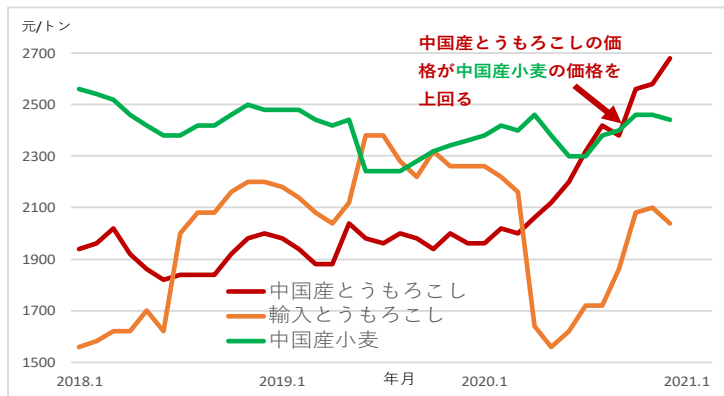
### 3 1億トンを超えた大豆輸入

穀物や大豆の需要量の増加によ



出典: USDA「PS&D」(2021.2.9)をもとに農林水産省で加工

図2 中国のとうもろこし、小麦価格の推移



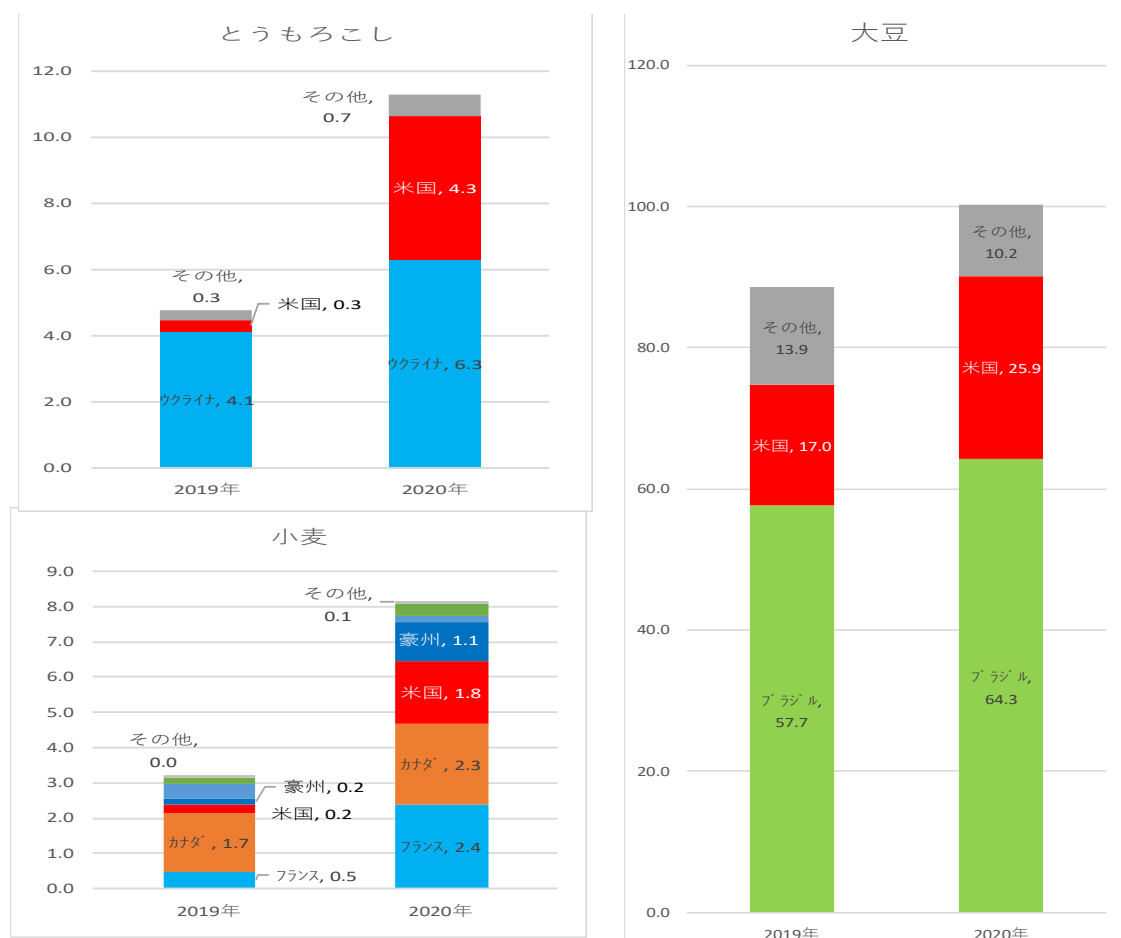
出典: 中国農業農村部資料を農林水産省で加工

り、特に従来から輸入に依存していた大豆については、2020 年の輸入量が対前年比 13%増の 1 億 33 万トン（2019 年 8,858 万トン）となり、史上初めて 1 億トンを超えた。米国産には米中通商摩擦により 2018 年 7 月以降関税を賦課したことから（その後免税措置等もとられたが）、ブラジル産のシェアが大きく、6,428 万トンと（2019 年 5,767 万トン）で、2／3を占めている。米国産は 2,589 万トン（2019 年 1,694 万トン）となっており、2019 年より増加したものの、2020 年 1 月に合意した米中通商協議一次合意の目標数量として言われていた米国産大豆輸入 4,000 万トンには達しなかった。その他、カナダやロシアからも一部輸入している。ロシアは本年 2 月 1 日から大豆に輸出税 30%を賦課したことから、今後、影響があるとみられている。

とうもろこしについては、畜産向け飼料需要の増加により、2020 年の輸入量は 1,130 万トンと 2019 年（479 万トン）の 2.4 倍となっている。輸入先はウクライナが 630 万トン（2019 年 414 万トン）と 6 割近くを占めているが、2020/21 年度のウクライナの干ばつによる減産により 2020 年秋以降、米国産の輸入も 434 万トン（2019 年 32 万トン）と大きく増加している。2021 年 1 月には、ウクライナが 2020/21 年度の輸出上限数量 2,400 万トンを公表した。今までの輸出実績と比べて小さい数量ではないが、今後も増加するとみられる中国のとうもろこし輸入への影響が一部あるとみられる。

小麦の輸入量もとうもろこしの価格高騰による代替の需要増加から輸入量が増加し、2020 年の輸入量は 815 万トンと 2019 年（320 万トン）の 2.5 倍となっている。フランス産、カナ

図2 2019 年と 2020 年の中国のとうもろこし、小麦、大豆輸入先の内訳



出典：中国海関統計をもとに農林水産省で加工

ダ産の輸入が多く、2020 年はそれぞれ、238 万トン（2019 年 48 万トン）、230 万トン（2019 年 166 万トン）と前年より増加している。また、2020 年は米国産の輸入が大幅に増加し、178 万トン（2019 年 24 万トン）となり、カザフスタンを抜いて輸入先第 3 位に浮上した。

3 品目とも 2020 年は輸入量が大幅に増加したことと、特に米国産の輸入量の伸びが目立っている。米国産の輸入の増加については、米中通商合意一次合意の履行に向けた動きもあるが、他国産の減産なども背景にあるとみられる。なお、コメについては、輸入量はとうもろこしや小麦よりは少ないが、飼料への代替需要の増加からインド等から安価な碎米を輸入する等、安価なコメの輸入が増加している。

#### 4 国際価格や貿易への影響

中国の穀物・大豆の需要・輸入増に加え、2020 年末からの南米の乾燥懸念もあり、穀物の国際価格も上昇し、大豆は 1 月には一時 14 ドル/ブッシェルを超えるなど、2014 年以来の水準まで上昇した。その後、南米での降雨や、2 月以降のブラジルの収穫が開始により 13 ドル/ブッシェル台となり、一時の上昇は収まったものの、前年よりは高水準で推移している。

USDA の 2 月見通しによれば、2020/21 年度の中国の大豆の輸入量は、アフリカ豚熱による 2018/19 年度の減少の影響から回復し 1 億トンが見込まれ、とうもろこしの輸入量は史上最高の 2,400 万トン、小麦も大幅増の 1,000 万トンが見込まれている。大豆のみならず、とうもろこしも世界 1 位の輸入国、小麦もエジプト、インドネシアに次ぐ世界第 3 位の輸入国となっている。

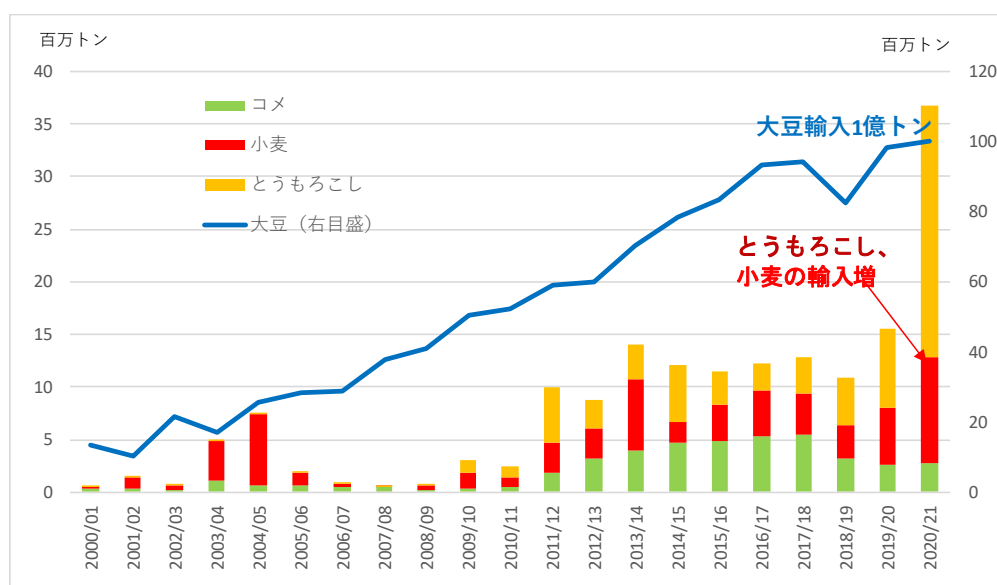
穀物価格の上昇に伴い、中国政府もこれから対策を行うとみられる。2 月 21 日に中国共産党が公表した中央一号文件（その年の中国共産党の最初の文書で、政府が最も重要としている課題について記載されている。農村、農業、農民の三農問題が取り上げられていることが多い）において、食糧については単収の向上や 6 億 5 千万トン以上の生産量の維持と同時に農産物の輸入多元化戦略を実施し、企業をグローバル農産物供給チェーンに組み込むことが掲げられている。

国内価格高騰しているとうもろこし、大豆は今後 2021/22 年産の作付けが行われる。また、2021/22 年度の華北平原で生育中の冬小麦については降雨不足で水分や肥料の供給を行うよう農業農村部が指示している。

2 月中旬の春節を迎え、穀物買付で新規の大きな動き

はないが、3 月以降の中国の生産・需要・輸入動向は引き続き注視していく。

図 4 中国のとうもろこし、小麦、コメ、大豆輸入の推移

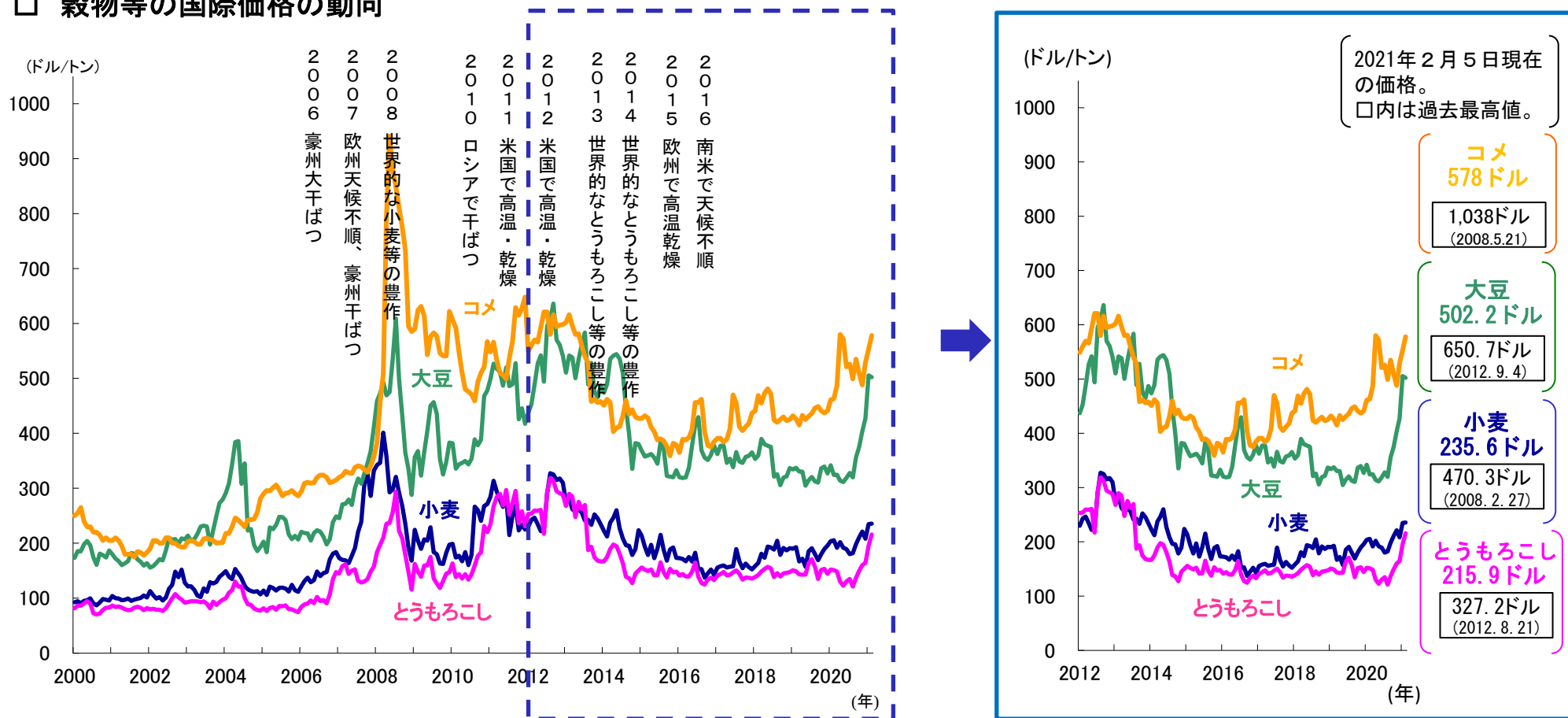


出典：米国農務省「PS&D」（2021. 2. 9）をもとに農林水産省で加工

# 資料 1 穀物等の国際価格の動向（ドル/トン）

- とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な豊作等から穀物等価格は低下。2017年以降ほぼ横ばいで推移も、2020年後半から南米の乾燥懸念、中国の輸入需要の増加等により、大豆を中心に上昇。コメは、2013年以降低下したが、2020年ベトナムの輸出枠の設定等により3月末から上昇。4月末の輸出枠の解除等で下落も、依然として高止まり。
- なお、穀物等価格は、新興国の畜産物消費の増加を背景とした堅調な需要やエネルギー向け需要により、2008年以前を上回る水準で推移している。

## □ 穀物等の国際価格の動向



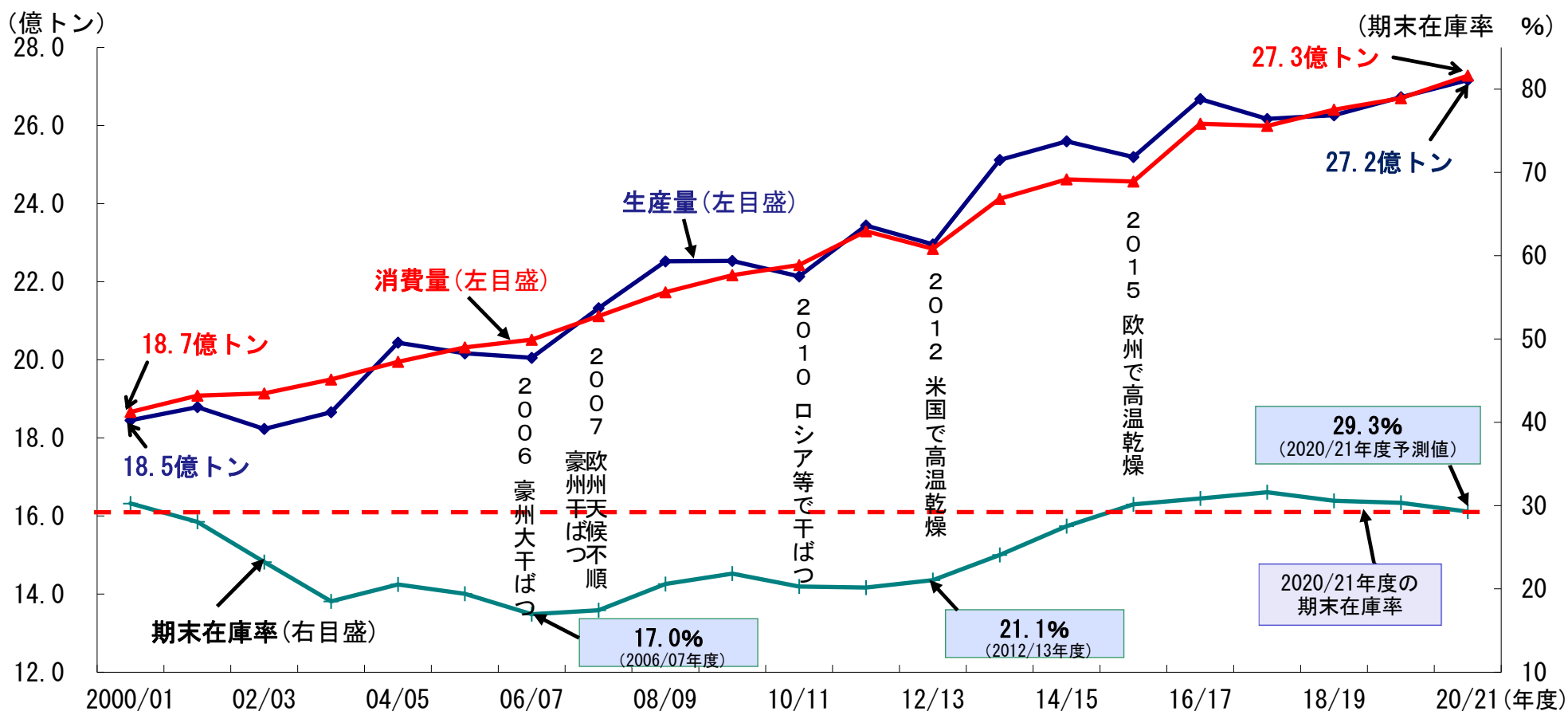
注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格（セツルメント）である。コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。

注2：過去最高価格については、コメはタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、コメ以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

## 資料2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2020/21年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2020/21年度の期末在庫率は、生産量が消費量を下回るも、29.3%となり、直近の価格高騰年の2012/13年度(21.1%)を上回る見込み。

### □ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(February 2021)、「PS&D」

(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。

## 資料3 令和2年8月以降の食品小売価格の動向

○ 加工食品の国内の食品小売価格については大きな値動きはなし。

### 令和2年8月～令和3年1月の 食品小売価格の動向

| 消費者物価指数(総務省)    |       |       |       |       |       |             |       |       |       |       |       |       |       |                    |
|-----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------------------|
|                 | H26   | H27   | H28   | H29   | H30   | H31<br>(R元) | R2    | R2    |       |       |       |       | R3    |                    |
| 品目              | 平均    | 平均    | 平均    | 平均    | 平均    | 平均          | 平均    | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   | 1月    | 上昇率<br>(前年<br>同月比) |
| 生鮮食品を<br>除く総合   | 97.7  | 100.0 | 99.7  | 100.2 | 101.0 | 101.7       | 101.5 | 101.3 | 101.3 | 101.3 | 101.2 | 101.1 | 101.4 | -0.6%              |
| 食パン             | 98.5  | 100.0 | 101.1 | 100.9 | 101.4 | 102.3       | 101.2 | 100.9 | 100.9 | 101.0 | 100.7 | 100.4 | 100.4 | -1.8%              |
| 即席めん            | 94.2  | 100.0 | 100.0 | 99.5  | 99.0  | 102.4       | 103.9 | 103.3 | 102.6 | 103.5 | 104.1 | 102.8 | 104.1 | 0.5%               |
| 豆腐              | 98.0  | 100.0 | 100.0 | 100.5 | 100.7 | 101.0       | 101.9 | 102.0 | 102.1 | 102.7 | 102.9 | 102.9 | 102.4 | 1.3%               |
| 食用油<br>(キャノーラ油) | 102.8 | 100.0 | 97.8  | 94.5  | 93.3  | 92.8        | 92.0  | 91.5  | 92.2  | 91.9  | 91.8  | 91.0  | 91.3  | -0.5%              |
| みそ              | 100.6 | 100.0 | 99.4  | 99.1  | 99.6  | 101.4       | 102.3 | 102.7 | 102.6 | 103.0 | 102.3 | 100.5 | 101.2 | -0.7%              |
| チーズ             | 97.9  | 100.0 | 99.3  | 98.8  | 102.6 | 102.9       | 101.7 | 102.4 | 103.0 | 102.2 | 101.9 | 100.7 | 101.4 | 0.1%               |
| バター             | 95.0  | 100.0 | 101.5 | 101.7 | 102.0 | 102.3       | 102.4 | 102.7 | 102.4 | 103.1 | 102.8 | 102.3 | 102.3 | -0.1%              |
| マヨネーズ           | 103.5 | 100.0 | 98.1  | 96.7  | 95.3  | 95.1        | 94.5  | 93.5  | 94.8  | 94.4  | 94.6  | 93.2  | 93.8  | -2.0%              |

資料:総務省消費者物価指数

注1:平成27年の平均値を100とした指数で表記している。

### 【参考】令和2年9月～令和3年2月の 食品小売価格の動向

| 食品価格動向調査(農林水産省) |       |       |       |       |       |             |       |       |       |       |       |       |       |              |                    |
|-----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------------|--------------------|
|                 | H26   | H27   | H28   | H29   | H30   | H31<br>(R元) | R2    | R2    |       |       |       | R3    |       |              |                    |
| 品目              | 平均    | 平均    | 平均    | 平均    | 平均    | 平均          | 平均    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   | 1月    | 2月    | 上昇率<br>(前月比) | 上昇率<br>(前年<br>同月比) |
| 食パン             | 97.7  | 100.0 | 100.9 | 99.5  | 99.8  | 103.2       | 101.9 | 101.6 | 101.6 | 101.6 | 101.4 | 101.2 | 101.6 | 0.4%         | -0.7%              |
| 即席めん            | 93.3  | 100.0 | 99.8  | 99.6  | 99.5  | 105.3       | 107.6 | 107.2 | 106.5 | 107.2 | 106.5 | 106.5 | 107.2 | 0.6%         | -1.2%              |
| 豆腐              | 100.3 | 100.0 | 96.9  | 95.6  | 95.0  | 95.7        | 94.8  | 93.9  | 93.9  | 93.9  | 94.3  | 94.7  | 96.3  | 1.7%         | 1.3%               |
| 食用油<br>(キャノーラ油) | 102.8 | 100.0 | 96.3  | 94.6  | 94.6  | 100.1       | 96.7  | 95.9  | 95.9  | 96.2  | 95.3  | 95.0  | 94.0  | -1.0%        | -3.2%              |
| みそ              | 99.0  | 100.0 | 99.8  | 101.6 | 106.8 | 111.0       | 110.5 | 110.1 | 109.6 | 109.9 | 108.5 | 109.4 | 111.0 | 1.5%         | -0.6%              |
| チーズ             | 97.1  | 100.0 | 100.0 | 99.7  | 103.2 | 105.7       | 104.8 | 105.8 | 105.3 | 105.3 | 104.8 | 104.8 | 105.8 | 1.0%         | -1.0%              |
| バター             | 94.6  | 100.0 | 101.3 | 102.0 | 102.3 | 102.7       | 103.3 | 103.4 | 103.2 | 103.2 | 103.2 | 103.4 | 103.2 | -0.2%        | 0.2%               |
| マヨネーズ           | 101.6 | 100.0 | 99.2  | 98.4  | 97.2  | 102.4       | 99.3  | 97.6  | 98.3  | 98.0  | 98.0  | 98.3  | 98.3  | 0.0%         | -2.7%              |

資料:農林水産省 食品価格動向調査(加工食品)

注1:平成27年の平均値を100とした指数で表記している。

注2:調査は原則、各都道府県10店舗で週1回実施。ただし、平成30年10月以降は月1回実施。

注3:調査結果は調査期間中の平均値で算出。

注4:令和3年1月の調査は、東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県での調査を中止し、2月の調査は東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、

大阪府、京都府、兵庫県、愛知県、岐阜県、福岡県での調査を中止したことから、それぞれ前月の値とは接続しない。

また、令和2年4月の調査は、東京都、大阪府、埼玉県、千葉県、神奈川県、兵庫県、福岡県での調査を中止し、5月の調査は東京都、

大阪府、北海道、茨城県、埼玉県、千葉県、神奈川県、石川県、岐阜県、愛知県、京都府、兵庫県、福岡県での調査を中止し、6月の調査は

全国で再開した。